

Vol.12

今月の 語り かける土

Pickup Artist



開示する形態

なんと「壁にぶつかった」などという。バイオモルフィック(生命形態的)な陶芸表現の第一人者である。近年「意識的に幾何学的な線や面を採用」し、矛盾を抱え込んだというのだが、これは必然の「変異」ではないか。その試みは中島の次のステージの展開を期待させるものだと思う。「老成してどうする」「わがままに創る。死んでも創る」とも述べている。なお前進の意思を堅持する、この凄味こそこの作家の本領である。また後進が学ぶべき点でもある。



なかしま 晴美
中島晴美

わたなべ せい いち
(多治見市美濃焼ミュージアム所長 渡部誠一)

※本連載では、国内外で活躍する多治見市ゆかりの陶芸作家と作品を紹介します